

ラウンドテーブルについて

ラウンドテーブルとは、1人の発表者と数名の参加者がテーブルを囲み、発表者のテーマに即して自由に意見を交換する場で、ファシリテータが進行を援助します。口演に比べ、一演題の発表と討論は60分と長く、参加者もテーブル内で自由に発言できるため、活発な意見交換が実現し、多くの発表者や参加者から好評を博しています。

本学会では初めてラウンドテーブルを取り入れます。本学会においても、積極的な発言や意見交換が行われることを期待しております。

参考として、第14回日本健康教育学会で作成された「ラウンドテーブルセッションの進め方」「ファシリテータの役割」「ラウンドテーブルに関するQ&A」について、日本健康教育学会の許可を得て、以下に掲載します。

1. ラウンドテーブルセッションの進め方

- (1) 発表者も参加者も共に着席して開始します。各円卓に椅子10脚を準備しています。参加希望者が多い場合は、周りのオブザーバー席をご利用ください。
- (2) 冒頭で、参加者と発表者は、このラウンドテーブルを選んだ理由も含め、ひとり1分以内で自己紹介をしてください。
- (3) まず発表者から10分程度で、研究の概要と論点を述べていただきます。持参した資料があれば、ここで配布してください。
- (4) その後は、「研究デザイン→方法→結果→今後の方向性」など研究の流れに沿いながら、意見交換を進めてください。意見が活発に出始め、論点が具体化したらその流れに任せてください。
- (5) 制限時間の5分前には、討議を終了します。最後に発言したいことがないか皆で確認し、必要であれば、発言を追加してください。
- (6) 参加者全員がお礼を述べ合うなどして、終了します。

2. ファシリテータの役割

- (1) ファシリテータは、第一の参加者として発表者を助け、ラウンドテーブルを囲む全員が交流できるよう、発表と討議の開始と進行を支えてください。参加者に対し「この点をどう考えられますか？」と発言を促すこともあり得ます。
- (2) 他の人々と協力し、時間通りの開始と終了(60分以内)を目指してください。スタッフが終了10分前にお知らせ致します。
- (3) 研究報告の主役は、発表者、討議の主役は発表者と参加者です。ファシリテータが進行に気をつかわずとも、両者の発言が順調に進み始めたなら、ファシリテータの役割はほぼ終わりです。後は自然の成り行きに任せてください。
- (4) ファシリテータは、全体の意見をまとめたり、結論付けたりすることに、責任を負う必要はありません。一参加者として、交流を楽しんでください。

3. ラウンドテーブルに関する Q&A

Q1: ラウンドテーブル（以下 RT）とは、分かりやすく言うと、どんなことですか？

A1: ラウンドが円、テーブルが卓で、ラウンドテーブルとは円卓を意味します。一人の演者と何名かの参加者が共に円卓を囲み、発表テーマに即して自由に意見を交換する試みです。和風に表現すれば「いりり端会議」となります。

Q2: RT は、どのような発表に適していますか？

A2: 「〇〇のような結果が出ました」と研究成果を報告するだけでなく、「今、〇〇のようなことで悩んでいます、解決策は？」と現場での課題、研究上の疑問などを持ち寄り、参加者みんなで考えることができます。また「△〇の経験から、△〇のようなことが考えられないでしょうか」と、新たな仮説を提案し、それを元に討議することも可能です。

Q3: RT の発表者は、当日、どのような資料を準備していったら良いですか？

A3: その場で、参加者が演者と同じ立場に立って、物を考えられるような、読みやすく分かりやすい資料をご用意ください。資料を必要とする参加者は、テーブルによって異なりますが、十数名程度と考慮してください。（今回の学会では、配付資料は 30 部程度ご準備ください。）

Q4: RT の討議に加わらず、周囲で見学するだけでもいいですか？

A4: 見学するだけでも構いません。しかし、あなたが同じテーブルに着席してくださるだけで、演者や参加者は元気づけられます。さらに、そこでの発表に関連して、一言でもあなたの意見を述べていただければ、そこから新たな交流が生まれます。

Q5: RT には、座長や進行役がつくのでしょうか？

A5: 演者と参加者だけで円滑に発表・交流が進む場合、座長や進行役（ファシリテータ）は原則的に必要ありません。しかし、発表形態に慣れない演者や参加者が戸惑う場合もあり得ますので、各テーブルに進行役（ファシリテータ）を配置します。

Q6: RT で進行役（ファシリテータ）を務めることになったのですが、注意すべき点がありますか？

A6: 演者と参加者が中心になって交流や討議の方向を決め、進行役はそれを支える程度に関わるのが大切です。進行役はコメンテーターではありませんので、自分の考えを述べることは控え目にしてください。もし可能であれば、進行役は事前に演者や参加者とことばを交わし、演者や参加者が求めていることへの理解を深めてください。

（一般社団法人日本健康教育学会理事長の承認を得て掲載しています。）